

## 露地ナスのソルゴー囲い込み栽培における 土着天敵活用技術

露地ナスのソルゴー囲い込み栽培は、土着天敵温存栽培法として定着していますが、土着天敵の定着効果が不安定なために必ずしも減化学農薬に繋がっていません。そこで、山口県農林総合技術センターでは、ブルーサルビアの栽植、ふすまと籾殻の混合有機物の吊り下げをソルゴー囲い込みと組み合わせることで、効果的な害虫防除技術を開発しましたので、その概要を紹介します。

### ☆ 技術の概要

1. ブルーサルビアは、天敵温存植物として適しており、アザミウマ類の土着天敵であるヒメハナカメムシ類、アカメガシワクダアザミウマ、クモ類が多く発生します（表1）。
2. ブルーサルビアには、ヒラズハナアザミウマやハナアザミウマが優占種で、ナスの傷果が問題となるミナミキイロアザミウマやその他のナス害虫の発生はほとんどありません（表1）。
3. ふすまと籾殻の混合有機物をナスにつり下げると（図1）、ハダニ類の天敵として働くカブリダニ類の増殖を促すことができます。
4. ソルゴーには、アブラムシ類の土着天敵であるショクガタマバエ、クサカゲロウ、テントウムシ類が多く発生します（図2）。
5. 土着天敵活用技術（ブルーサルビア栽植、有機物吊り下げ、ソルゴー囲い込み）と天敵に影響の少ない農薬による総合防除体系では、天敵の発生が促進されて害虫の発生が抑えられ、農薬の散布回数を減らすことができます。

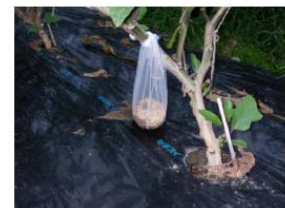


図1 有機物吊り下げ状況（ふすまと籾殻）

表1 天敵温存植物における害虫・天敵の発生状況

天敵温存植物	種類	7~11月累計
ブルーサルビア 開花日：7月25日	害虫	
	アザミウマ類	288
	アブラムシ類	23
	天敵	
	ヒメハナカメムシ類	16
マリーゴールド 開花日：7月16日	害虫	
	アザミウマ類	112
	アブラムシ類	23
	天敵	
	ヒメハナカメムシ類	6
	クモ類	7
	アカメガシワクダアザミウマ	2

注1)20花当たり成幼虫数

注2) 播種日：平成23年6月3日

注3)アザミウマ類は8月まではヒラズハナアザミウマ、9月以降はハナアザミウマが優占

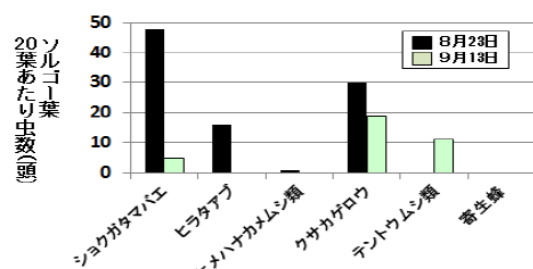


図2 ソルゴーにおける土着天敵の発生状況(平成24年)

### ☆ 活用面での留意点

1. ブルーサルビアの播種は、ナス圃場の畝立てやソルゴー播種の作業時期と合わせて行うと効率的です。播種時期が遅れると、開花時期が遅くなってヒメハナカメムシ類の発生量が少なくなるため、6月上旬までに播種することが望ましい。
2. 詳しいことは、山口県農林総合技術センター（TEL：083-927-0211）へお問い合わせください。  
(日本政策金融公庫農林水産事業本部 テクニカルアドバイザー 吉岡 宏)